

吟剣詩苑

g i n k e n s h i b u

10
令和4年
神無月

第46回
全国高等学校
総合文化祭

とうきょう
総文2022

表紙の詩

春夜洛城に笛を聞く 李白

誰が家の玉笛か暗に声を飛ばす
散じて春風に入つて洛城に満つ

此の夜曲中折柳を聞く

何人か故園の情を起こさざらん

第46回全国高等学校総合文化祭
とうきょうきょうとう総文2022

江戸の街で 花開く高校生の 祭典

日時：令和4年8月4日（木）

場所：東京都・江戸川区総合文化センター

主催：文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、
東京都、東京都教育委員会、他

毎年真夏に開催される「文化部のインターハイ」、全国高等学校総合文化祭。46回目を迎えた今年も、「江戸の街 光織りなす文化の花」をテーマに首都東京で開催。その最終日の8月4日、江戸川区総合文化センターにて吟詠剣詩舞部門が、新型コロナウイルスの第7波に見舞われる中、感染防止対策を徹底したうえで実施されました。大会には昨年より4県上回る25都府県が参加、200人近い高校生が「コロナに負けじ」と澁刺とした舞台を披露しました。



出演順	都道府県	学校数	人数	上演題
1	大分県	6	15	構成吟(書道吟・華道吟)「大分を訪ねて」
2	兵庫県	1	4	構成吟「兵庫の史跡」
3	熊本県	5	5	構成吟「熊本一日周遊の旅」
4	鹿児島県	2	4	構成吟「明治維新とふるさと鹿児島」
5	愛媛県	4	7	構成吟「花」
6	宮城県	1	7	構成吟「人の世の哀しみ」
7	神奈川県	3	15	構成吟「日本と中国の栄枯盛衰」
8	群馬県	5	8	構成吟「作者の心」
9	鳥取県	1	7	構成吟「ふるさと鳥取」
10	京都府	1	7	構成吟(書道吟)「園部高等学校吟詠剣詩舞部」
11	福岡県	7	9	構成吟「結」
12	富山県	1	2	構成吟「李白と杜甫」
13	福島県	3	12	構成吟「福島巡遊」
14	石川県	2	2	構成吟「ふるさと加賀能登」
15	愛知県	3	14	構成吟「龍 煌めく」
16	佐賀県	2	3	構成吟「葉隠れ」
17	高知県	1	11	構成吟(華道吟)「大和の春秋」
18	福井県	4	4	構成吟「越のくにから」
19	岐阜県	5	12	構成吟「幽玄」
20	和歌山県	2	3	詩吟「貧交行」詩舞「弘道館に梅花を賞す」
21	奈良県	2	9	構成吟「大江山」
22	三重県	3	3	構成吟「～憶う心～」
23	徳島県	4	9	構成吟「渭山城～阿波の殿様 蜂須賀公～」
24	長崎県	2	2	構成吟「日本の夜明け」
25	東京都	6	16	構成吟「共鳴」



会場となった江戸川区総合文化センター。大ホールの収容人数は1497席



大ホールへの入り口には体温測定カメラと手指消毒器が設置

全国から吟詠詩舞を愛する高校生が一堂に会する喜び

1977年に千葉県で開催されて以来、今年で46回目となる全国高等学校総合文化祭。「高校総文」や「高文祭」「総文祭」などとも呼ばれ、体育会系の「インターハイ」に相当する文化部の全国大会として人気を呼んできました。

吟詠剣詩舞部門は第1回から継続して開催。コロナ禍に見舞われた2020年の高知大会は初めてオ



上:途中のイベントタイムでは、風原生徒委員長が登場してじゃんけんゲーム
下:東京の名所をカードに貼り、映像で登場する順番により開けていくビンゴで盛り上がる

ンラインでの開催となりましたが、今年はオミクロン株で感染者が増えるなか、移動制限にはならなかったため、手指の消毒、マスクの使用など感染防止対策を徹底したうえで無事開催の運びとなりました。

しかしながらやはり学校や家庭の事情により出場校や出場人数は減少。エントリー人数でコロナ前の2019年佐賀大会が258人だったのに対して、今回は190人と約25%少なくなりました。

それでも全国から共通の目標を

賑やかに、和やかに コミュニケーション、 生徒交流会

持つ高校生が一堂に会するのは、当人たちにとっては大きな喜びであり、学校関係者、吟詠詩舞関係者にとつてもうれしい限り。大会前日の午後5時過ぎから開催された恒例の生徒交流会は、そんな喜びに満ち溢れていました。

生徒交流会は、内容から運営まですべて生徒実行委員が管理する「高校生による高校生のための」イベント。今回は各地から参加の生徒をアトラダムにグループ分けし、まずは自己紹介タイム。

続いて東京の名所をあらかじめカードに貼って、生徒実行委員のメンバーが訪ねる映像を流し、その順番を当てるビンゴゲーム。東京タワーなどの賞品を巡って盛り上がりました。

最後には東京大会のマスコット「ゆり」とくんと、次回の鹿児島大会のマスコット「かごまる」くんが舞台に登場。47都道府県最後の開催地となる鹿児島県に、タスキとバトンが渡されました。



東京大会のマスコット「ゆり」とくん(左)と鹿児島大会のマスコット「かごまる」くんが登場

同年代の方がたくさんいて
驚き、楽しかったです

山中(中根)七海さん

(熊本県立熊本高校2年)

山中梅鈴子会長の長女で、昨年の吟詠全国コンクール少年の部で優勝した山中(中根)七海さんが高校総文に初参加。その印象を尋ねてみた



「吟詠詩舞をやっている同じ年代の方が200名近くもいて驚きました。県内だとしても同じ年代の方は少ないので、他の都府県の方とお会いできてとてもうれしかったです。吟詠詩舞を始めた時期が大きく違っていたのも驚きです。生徒交流会に参加して吟詠詩舞をいつから始めたか話題になったのですが、この大会に向けて練習を始めた方もいれば、小さい時から習っている方もいました。始めた時期が大きく違っても高文祭に向けて頑張ってきた想いは皆同じなので、とても楽しく話すことができました。本番のステージは今まで練習してきた成果を発揮することができて良かったです」

各地で高校生を指導する流派の達人

福岡県の嘉穂高校吟詠剣詩舞部を指導する日本社心流九州昭武館の藤野昭錬館長や、福井県チームを指導する宗心流の中嶋宗山宗範など、毎年高校生を引率して各々の流派の先生方も多い。奈良県チームを指導する大日本正義流多田正晃宗家と、熊本県チームを指導する日本吟声流山中梅鈴子会長に高校生指導について伺いました。

高校生にしかできないやり方で輪を広げてほしい

山中梅鈴子先生

(熊本県チーム)日本吟声流会長



「私が高校生の時、流派で最初に高文祭に参加させていただきました。それから、流派から参加する高校生がいる時は指導者として携わるようになりました。高校生はすでに大人と同じ感覚を持っていると感じているので、大人と同じように漢詩の意味など吟詠の深い部分を伝えることを心がけています。また、一方通行にならないよう高校生の意見を聞くようにしています。今回はチームワークがとても良く、生徒みんなの絆が感じられました。吟詠詩舞に熱い気持ちを持っていただいているので、高校生にしかできないやり方で輪を広げて、たくさんの仲間を作ってください」

新しい吟詠詩舞のアイデアを作ってもらいたい

多田正晃先生

(奈良県チーム)大日本正義流宗家



「正義流の奈良県在住の師範が教えていただきましたが、高齢となり去年末から引き継ぎました。奈良県は高校の顧問の先生が熱心に活動しており、吟詠詩舞を部活に入って初めてする生徒ばかりです。1年生は習い始めて5カ月しか経っていませんが、若く吸収力があるのでできるかどうかのギリギリの振付のレベルで指導しました。コロナ禍の影響で3年生も大勢の観客の前で演舞するのは初めてでしたが、落ち着いて、お稽古どおりに演舞できたと思います。高校生には思いつきでいいので新しい吟詠詩舞のアイデアを作ってもらい、やりたいことを楽しくやってほしいですね」

25都府県の高校生が次々に 独自の吟詠剣詩舞を披露

大会当日は9時から開会式を開催。日本吟詠剣詩舞振興会沼崎富会長は「財団の設立趣旨の大きな柱の一つは青少年への吟詠剣詩舞の普及向上であり、青少年育成基金を設立してそこから支援させていただいて

おります。本日出場の高校生の皆さんには日頃の練習の成果をいかなく発揮され、ご来場の皆様にご披露と与えるような吟詠剣詩舞をご披露いただけますことを期待いたしております」と挨拶。9時45分から大分県を皮切りに、最後の東京都まで25都府県が澁刺とした吟と舞を披露しました。



愛知県:構成吟舞「龍 煌めく」

吟詠剣詩舞王国愛知からは、今年も13人(実数)が参加。最上級の幸運を表す吉兆のシンボル「龍」をテーマにして、詩舞「神龍』『富士山』、詩舞「金龍』『夜墨水を下る』。剣舞「龍馬』『坂本龍馬を思う』、そして剣舞「龍虎』『川中島』(写真)を勇壮に舞った

奈良県:構成吟「大江山」(上)

県立高校2校の吟詠剣詩舞部で構成される奈良県。『大江山』は酒頭童子率いる鬼の一味を源頼光らが打ち破る物語。指導する日本正義流多田正晃宗家は鬼(左手奥)には面をつけることを提案したが、黄緑の毛をつけたのは生徒たちのアイデアとのこと

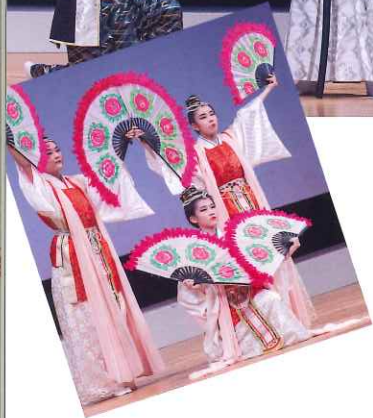
徳島県:構成吟剣詩舞「渭山城 ～阿波の殿様 蜂須賀公～」(下)

毎年地元の偉人等を題材に、書道吟を含めて構成する徳島県。今年も蜂須賀小六が大名になった後、長く阿波国、徳島藩を収めた蜂須賀公がテーマ。最後の『蜂須賀公墓前の作』では、書道吟に剣舞・詩舞を交えてダイナミックな舞台を展開した



神奈川県: 構成吟「日本と中国の栄枯盛衰」

昨年はコロナ禍により無念の出場辞退となった神奈川県。今回は柏木学園高校短歌書道部による『清平調詞(其の一)』(写真下)、2017年に武道館大会にも出場した横浜修悠館高校(陸上自衛隊高等工科大学)の『奇襲鶴越』(写真上)などで気を吐いた



若いパワーみなぎる 百花繚乱の吟と舞



群馬県:構成吟「作者の心」

今年で18回目の出場になる群馬県は、『夜墨水を下る』『不識庵機山を撃つ図に題す』『弘道館に梅花を賞す』と独吟三題のあと、最後に同年代の少年たちの悲劇を描いた『白虎隊』を、自刃で果てる壮烈な最期を演じて観客の涙を誘った



鹿児島県:構成吟「明治維新とふるさと鹿児島」

来年、47都道府県の最後を飾って開催地となる鹿児島県は吟詠剣詩舞部門に初参加。2校の合同チーム4人で、『弘道館に梅花を賞す』と、郷土の英雄西郷隆盛の最後を詠った『城山』を吟と舞で表現。最後に来年の開催日程を発表した

やり切ったという達成感で
いっぱいです

風原航輝さん

吟詠剣詩舞部門委員会生徒委員長
(六本木高校3年)



生徒委員長の重責を担いながら、吟詠剣詩舞同好会のメンバーとしてナレーションも務めた風原

さんに、大会終了直後にインタビューしました。「(今の気持ちは)やり切ったという達成感でいっぱいです。和歌山大会では舞をしましたが、とうきょう総文という大きな大会をリードしていけるというのはすごい魅力的で、生徒委員長を引き受けました。大会前日の生徒交流会は、ゲームの内容やスケジュールも全部生徒実行委員会が管理していたので大変でしたが楽しかったですね。開会式、閉会式の挨拶は緊張しましたが、失敗なく大きな拍手ももらえてうれしかったです。全国の人たちの演技もみな素晴らしいので、自分にとって本当に充実した大会でした」

力を合わせて、失敗しても楽しんでほしい

小宮徳健校長

東京都実行委員会吟詠剣詩舞部門委員長(東京都立六本木高校校長)
昨年春に赴任した小宮徳健校長



特別授業から通年の授業へと拡大してきました

上田明海先生

東京都教育庁指導部指導企画課全国高等学校総合文化祭担当 部門専門官
教育庁に outward している上田明海先生



とうきょう総文2022吟詠剣詩舞部門の幹事校である六本木高校の小宮徳健校長と、同校で吟詠剣詩舞立ち上げの時から尽力し教育庁に outward している上田明海先生に、六本木高校の取り組みと生徒たちへの期待を伺いました(大会前日に取材)。
小宮「5年前に東京開催が決まった時に、東京都高等学校文化連盟では吟詠剣詩舞など3つの部門に専門部がありませんでした。それで六本木高校には総合学科があり、芸術・文化系のカリキュラムも充実していることから、吟詠剣詩舞を授業に取り入れることができるのではないかとということで白羽の矢が立ち、その後授業を受けている生徒が吟詠剣詩舞同好会にスライドしていくという流れで取り組んできました」
上田「詩吟は富沢先生、舞は齋木先生(下欄参照)にお願いしていますが、最初は「産業社会と人間」という授業に富沢先生を特別講師としてお招きし、その後「詩吟と舞」という通年の授業へと拡大していきました。同好会は音楽教諭の佐藤孝太先生が顧問として活動しています」
小宮「今回は他校の生徒との混成チームですが、力を合わせて、失敗しても楽しくやってもらえればいいと思います」
上田「この小ホールで開催された一般の大会に出た時に、失敗をして涙する場面もありました。そういう気持ちを持ってたということは成長した証だとこちらも感激しました」



六本木高校の生徒だけだった昨年の和歌山大会とは違い、『富士山』では6校14人で吟と舞を展開。合同練習も重ねて、息の合った動きで雄大な富士山を描いて見せた

都立六本木高校を主体にした 東京都チームのチャレンジ

最後から2番目、46回目に巡ってきた首都・東京での開催。5年前に開催が決まった時には東京都高等学校文化連盟に吟詠剣詩舞部門の専門部がなく、一からのスタートとなりました。

「ぎんけんしぶつて何？」というところから、授業で詩吟と舞を学び、吟詠剣詩舞同好会のメンバーとして活動してきた都立六本木高校の生徒たち。昨年の和歌山大会で初舞台を踏み、今年5月には北とびあでの全国吟詠剣詩舞大会などで経験を積んできました。

今大会では他校の生徒も交えて、構成吟「共鳴」を計15人で展開。「ふるさとの『弘道館に梅花を賞す』」「富士山」の三題を、見事に息の合った吟と舞で表現しました。
昼夜間3部制の定時制、単位制の総合学科というユニークなチャレンジスクールである六本木高校でこ

首都開催に向けたそれぞれの想い



そ花開いたと言えるその軌跡を、さまざまな関係者へのインタビューで追ってみました。

『ボレロ』をBGMにして、生徒実行委員長も務める風原航輝さんの「たったひとつの学校から始まった東京チーム。はじめは悩みがつきなかつた。何をどうすればいいか、さっぱりわからなかつたからだ」というナレーションでスタート。「弘道館に梅花を賞す」では、扇で見事に千樹の梅を表現した

若い力みなぎる
迫力あるステージができました

毛塚静精先生

東京都吟詠剣詩舞道総連盟理事長
閉会式では毛塚静精理事長が講評を務めた



「東京は都立六本木高校を軸として6校の合同チームでした。コロナ禍と猛暑のむずかしい状況のなか、努力、協力、工夫をこらし、稽古が進むにつれ自発的に意見が生まれ、前向きな姿勢が尊重し合っただけで心がひとつになっていきました。礼と節がしっかり生きていました。全国から参加の皆さんも同等のハンディで本日を迎えたが、若い力みなぎる迫力あるステージができがりました。日本古来の伝統文化、伝統芸術である吟詠剣詩舞のゆるぎない隆盛に胸熱くなりました。そして本大会の関係各位の皆様のご協力に心より感謝と御礼を申し上げます」

衣装も新調したし思い切りやってくれるでしょう

齋木彩染(明子)先生

日本吟詠剣詩舞振興会代議員 彩佑流吟詠剣詩舞道宗家
剣詩舞を指導した齋木彩染先生



一から始めてよくここまでこれたなと思います

富沢竜風(竜也)先生

日本詩吟学院大江戸岳風会
吟詠を指導した富沢竜風先生



六本木高校の授業と吟詠剣詩舞同好会で指導してきた富沢先生(吟詠)と齋木先生(剣詩舞)に、これまでの経緯と生徒への期待を大会朝にお伺いしました。
齋木「東京で高校総文が開催されることになり、東京都吟詠剣詩舞道総連盟として毛塚静精先生とともに六本木高校を訪れたのが4年前ですね。翌年に富沢先生と同校の短期集中講座の指導に行きました。その後同好会でも教えるようになりました」
富沢「最初は授業からですね。単位を取れるカリキュラムに入れていただいたので」
齋木「この高校総文のために集められた感じでしたけど、結構はまって熱心に練習してくれる子どもも増えて。この1年は北とびあでの全国吟詠剣詩舞大会、群舞コンクールなどいろんな大会にも出させていただきました」
富沢「最初は誰も詩吟も剣詩舞も知らなくて、昨年の和歌山大会はみんな練習始めて1年くらいでしたけど、よくあそまでできたなと。今日はどうなることか。昨日よく眠れませんでした(笑)」
齋木「今回は他校の生徒とも合同練習をしてきました。衣装も新調しましたし、リハーサル見て確認したので、今日は思い切りやってくれると思います」